

自然のめぐみと生物多様性

私たちの生活を支え「自然のめぐみ」

私たちの生活は、きれいな空気や水、食べもの、燃料、衣服など、すべて「自然のめぐみ」によって支えられています。「自然のめぐみ」を受け取ることができなければ、私たちは生きていくことすらむずかしいのです。

自然のめぐみを得るためには、自然が健全に守られている必要があります。そのためには、「生きものが多様である」ということがとても重要です。では、生きものが多様であるというのは、どういうことなのでしょう。



出典：環境省「こども環境白書2016」

生物多様性とは

地球には、わかっているだけで約 175 万種の生きものがいます。まだ発見されていない生きものもあわせると 3,000 万種にもなるといわれています。これらの多種多様な生きものは、お互いを支えあい、時には食う食われるの関係で、バランスをとりながらくらしています。さまざまな生きものがいることによって、豊かな自然が健全に守られているのです。

このように、「さまざまな生きものがくらしている」ことを、**生物多様性**といいます。生物多様性には、「生態系」「種」「遺伝子」の3つのレベルがあります。

① 生態系の多様性

森林、海洋、草はら、湿地など、いろいろなタイプの自然、つまり生きものがくらす場所があります。



森林



湿地



海洋



草はら

② 種の多様性

動物、植物、細菌など、いろいろな種類の生きものが存在し、お互い支えあいながらくらしています。



ニホンアマガエル



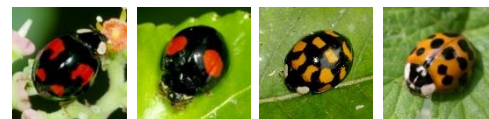
ミドリジミ



タチツボスミレ

③ 遺伝子の多様性

同じ種類の生きものでも、異なる遺伝子を持ち個性があります。形や模様などに違いがある種もいます。



ナミテントウ

いろいろな模様のナミテントウがいるね。同じ種でも地域によって遺伝子が大きく違うものがあることもわかってきたよ。生きものをむやみに移動させたり放したりしないようにしようね。



生物多様性にせまる危機！！

日本の生物多様性は、4つの危機にさらされています。1975～2000年の25年間には、地球全体で4万種の生き物が絶滅したとされています。これは1日に4種の生きものが絶滅した計算になります。

第一の危機

人間が自然を壊している！

埋め立てや伐採などの開発によって自然環境を悪化させたり壊してしまったことで、そこにくらす生きものはくられなくなり、減ったり絶滅してしまいました。



第二の危機

自然と人間のかかわりが薄れて自然が荒れる！

私たちの身近な場所では、田んぼで稲を育てたり、山から燃料となる木材を切り出すなど、人間が自然を利用することで成り立つ自然がありました。しかし人間が利用しなくなったため、自然のバランスが崩れ、そこにくらしていた生きものの種類や数が減ってしまいました。



キキョウ



秋の七草で有名なキキョウは、日当たりの良い草はらを好む植物。田んぼで米がつかれず草刈りがされなくなったり、森の手入れがされなくなったことで、キキョウが好む環境が減ってしまって、絶滅の危機にあるんだよ。

第三の危機

持ちこまれた生きものの悪影響！

外来種など人によって違う場所から持ちこまれた種が、もともと地域でくらしていた生きものを食べたりくらす場所をうばったりすることで、もともと地域でくらしていた生きものが減ったり、生きもの同士のバランスを崩しています。



アライグマ



アライグマはもともとアメリカにいる動物だよ。ペットとして日本に連れて来られたただけど、逃げ出したり、捨てられたりして、カメや鳥のヒナを食べたり、タヌキのすみかをうばってしまうなどの問題が起きているんだ。

第四の危機

地球全体の問題。地球温だん化によって絶滅する！

地球温だん化によって、世界の平均気温が1.5～2.5度上がると、春に氷が早く溶けだしたり、海水の温度があがったり、海面が上昇したりすることによって、生きものが絶滅してしまう危険性が高まるといわれています。



考えてみよう

私たちが生物多様性を守るために
できることはなんだろう？

野田市の取組-コウノトリの飼育・野生復帰

野田市では、自然と共存する地域づくりのシンボルとしてコウノトリの飼育・繁殖を行い、2015 年から 12 羽を野外に放鳥しています。また、コウノトリのエサにもなる豊かな生きものを育むために、冬に水をはる冬水たんぼや黒酢を使った無農薬の米づくり、田んぼの生きもの調査などを行っています。

左:野田市で飼育しているコウノトリ
右:無農薬の米づくりをしている市民農園



野田市にくらす生きものたち

みんなは、どんな生きものを見たことがあるかな？

①ホタル（写真はヘイケボタル）	②カブトムシ	③クツワムシ	④メダカ（写真はミナミメダカ）
 赤に黒の縦ライン。夏の夜、田んぼで光りながら飛ぶのはオス。	 夏の夜、クヌギやヤナギなどの樹液に集まります。	 体は緑色または褐色で、ガチャガチャと大きく鳴きます。	  田んぼや水路で群れになって泳ぎます。
⑤ドジョウ	⑥カエル（写真はトウキョウダルマガエル）	⑦ヘビ（写真はアオダイショウ）	⑧ヒバリ
 田んぼや水路の泥の中でくらしています。	 田んぼや湿地などでくらしします。ンゲゲゲ、ンゲゲゲと鳴きます。	 体長 2m になりますが、毒はありません。家の守り神とも。	 春を告げる鳥ともいわれ、ピチュピチュと飛びながら鳴きます。
⑨ツバメ	⑩フクロウ	⑪コウノトリ	⑫タヌキ
 春に来て民家の軒などで子育てをする、身近な渡り鳥。	 森にくらし、ネズミなどを食べます。ホーホーと鳴きます。	 田んぼや河川でドジョウ、魚などを食べます。羽を広げると 2 m にも。	 林でくらしします。近年アライグマにすみかをうばわれています。